

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2019年1月）**

目 次

**内 政**

- ◆フィツォ Smer 党首の憲法裁判所裁判官への立候補 . . . . . 2
- ◆2019年大統領選挙の関連報道 . . . . . 3
- ◆政党支持率調査結果 . . . . . 4

**外 政**

- ◆スロバキアの2019年OSCE議長国への就任 . . . . . 4

**社 会**

- ◆ウクライナ人労働者等の外国人労働者の増加 . . . . . 5

**経 済**

- ◆2018年の自動車生産実績 . . . . . 6
- ◆USスチール・コシツェ社による大型追加投資 . . . . . 6
- ◆スロバキアにおける「新シルクロード」構想の展望 . . . . . 7
- ◆ハードブレグジットがスロバキアに与える影響 . . . . . 8

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

## 内 政

### ◆フィツォSmer党首の憲法裁判所裁判官への立候補

【8日付スメ紙】

7日、最大与党「方向-社会民主主義（Smer-SD）」は、グルヴァーチ国会議員の推薦に基づき、フィツォSmer党首（前首相）を憲法裁判所裁判官の候補者とすることを明らかにした。フィツォSmer党首は、2020年総選挙においてSmerの勝利を目指す旨繰り返し述べてきたが、仮に同裁判官に任命される場合、議員辞職して政界から身を引くことになる。

同裁判官の定員は13名であり、そのうち9名の任期が2月で終了する。国会は、同裁判官ポストへの立候補者の中から18名（空席となるポストの2倍の人数）を最終候補者として選出し、その後キスカ大統領が当該18名の中から9名の同裁判官（うち1名は憲法裁判所長官）を任命することになる。

法律関係のシンクタンク「Via Iuris」は、「フィツォ前首相は、同裁判官として必要な政治的中立性に欠けている」と指摘している。憲法裁判所裁判官のポストには、プントナー副法務相、ヤンコウスカー副法務相、クレサークMost-Hid国会議員、シュヴェツォヴァー最高裁判所長官、プロハーツカSiet元党首も立候補している。

【28日付スメ紙】

23～25日、憲法裁判所裁判官への立候補者40人に対する公聴会が行われた。同公聴会には、キスカ大統領の補佐官（憲法問題担当）も出席し、各候補者に対して立候補の動機等について質問を行った。

25日の公聴会后、国会憲法・法務委員会（定員13名）は、フィツォ党首が憲法裁判所裁判官の候補者としての資格を満たしているか否かについて採択を行ったが、賛成6票、反対6票、棄権1票の結果となり、結論を出すことができなかった。同決議に反対した議員は、フィツォ党首が立候補の必要条件である法曹分野における15年以上の職歴を有していない旨指摘している。

同委員会は、フィツォ党首を除く39名の候補者については、同裁判官の候補者としての資格を認める決議を採択した。同委員会の決議は、国会が同裁判官の最終候補者を選出する際の参考として用いられるが、何らかの拘束力を持つものではない。

ダンコ国会議長は、国会憲法・法務委員会に対して、フィツォ党首が候補者としての資格を有しているか否か明確な結論を出すよう要請するとともに、「同委員会が結論を出さない限り、国会は同裁判官の最終候補者を選出することはできない」と述べた。

（注：2月4日、クリロウスカー警察学校学長が立候補を取り下げ、同裁判官

への立候補者は計39人となった。同月7日、国会憲法・法務委員会は、フィツォSmer党首が立候補の資格を満たしているとの判断を下した。）

#### ◆2019年大統領選挙の関連報道

##### 【投票日の確定（10日付国会プレスリリース）】

10日、ダンコ国会議長は、3月16日（土）に大統領選挙の第1回投票を実施する旨発表した。第1回投票で過半数の得票率を得た者がいない場合、3月30日（土）に第2回投票が実施される。

##### 【シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長の立候補表明（17日付スメ紙電子版）】

17日午前、シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長（エネルギー連合担当）は、ブラチスラバ市内のホテルにおいて記者会見を開き、2019年3月に行われる大統領選挙への立候補を表明した。最大与党「方向-社会民主主義（Smer-SD）」のフィツォ党首が、「シェ」副委員長に対し、同選挙に立候補するよう要請していた。

世論調査機関Focusのスロシアリク氏は、「選挙運動において、Smerが『シェ』氏の知名度を向上させることに成功する場合、『シェ』氏が同選挙の第2回投票に進む可能性は極めて高くなる」と述べた。

##### 【候補者の支持率調査結果（28日付Dennik N紙）】

世論調査機関Focusが、有権者1013人を対象に16～23日にかけて実施した、大統領選挙候補者の支持率調査の結果は以下のとおり。なお、同調査の対象に含まれているダンコ議長は、27日に同選挙に立候補しない旨表明した。

- (1) ミストリーク氏（化学者）（無所属。SaS及びSpolu支持）：16.5%
- (1) シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長（無所属。Smer支持）：16.5%
- (3) ハラビン最高裁判所裁判官（無所属）：11.7%
- (4) ブガールMost-Hid党首：10.1%
- (5) チャプトヴァーProgressive Slovakia副党首：9.0%
- (6) コトレバLSNS党首：8.2%
- (7) ダンコ国会議長（SNS党首）：7.8%
- (8) クライニアクSme rodina国会議員：7.0%
- (9) ミクロシュコ元国会議員（無所属）：6.7%
- (10) フメラール氏（言論家）（無所属）：2.3%

以下、第2回投票に以下の候補者が進んだ場合の支持率

- (1) 第1シナリオ

ミストリーク氏（化学者）（無所属。SaS及びSpolu支持）：50.0%  
 シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長（無所属。Smer支持）：50.0%

（2）第2シナリオ

シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長（無所属。Smer支持）：58.0%  
 チャプトヴァーProgressive Slovakia副党首：42.0%

（3）第3シナリオ

シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長（無所属。Smer支持）：65.0%  
 ハラビン最高裁判所裁判官（無所属）：35.0%

（4）第4シナリオ

ミストリーク氏（化学者）（無所属。SaS及びSpolu支持）：64.0%  
 ハラビン最高裁判所裁判官（無所属）：36.0%

◆政党支持率調査結果（28日）

世論調査機関Focusによる1月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。新党Progressive Slovakiaの支持率は4.9%、Spoluの支持率は3.5%であり、国会議席獲得に必要な5%を僅かに下回っている。

政党	Focus	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	22.5%(40)	28.3%
SaS（自由と連帯）	12.3%(22)	12.1%
Sme rodina（我々は家族）	10.4%(19)	6.6%
OLaNO-Nova（普通の人々・独立した人達 -新たな多数派）	10.0%(18)	8.6%
LSNS（我々のスロバキア）	8.4%(15)	8.0%
SNS（スロバキア国民党）	8.0%(14)	8.6%
KDH（キリスト教民主運動）	7.0%(12)	4.9%
Most-Hid（架け橋）	5.8%(10)	6.5%

**外 政**

◆スロバキアの2019年OSCE議長国への就任

【1日付外務・欧州問題省プレスリリース】

本日（1月1日）、スロバキアは欧州安全保障協力機構（OSCE）議長国のバトンを引き受けた。OSCE議長に就任するのはライチャーク外務・欧州問題相である。

OSCE議長国期間中、スロバキアが主催、共催する約50の会合が、様々なレベルにおいて実施される。そのうち約半数の会合が、ブラチスラバあるいは

はその近郊で行われる。今年夏には、非公式OSCE外相会合が実施される予定である。また今年12月に、スロバキア史上最も重要なイベントの一つとなるOSCE外相理事会が開催され、約70か国が出席する予定である。その他、スロバキアにおいて、反ユダヤ主義、過激主義、経済と環境、サイバー安全保障、治安部門の統治及び改革（security sector governance and reform）等をテーマとした12のハイレベル国際会合が開催される予定である。

#### 【10日付外務・欧州問題省プレスリリース】

10日、OSCE議長を務めるライチャーク外相は、ウィーンにおけるOSCE常設理事会において、紛争予防、安全な未来、効果的な多国間主義をOSCE議長国スロバキアの優先事項として発表した。議長国スロバキアのスローガンは、「Slovakia 2019: In support of People, Dialogue and Stability」である。

「ラ」外相は記者会見において、「我々は、OSCE地域における対話、信頼及び安定の促進に対し野心的に取り組みたい。しかし同時に、我々は不安定な時代を生きており、我々は現実的である必要がある。この大陸の人々の生活に対する更なる脅威を、我々は容認できない」と述べるとともに、OSCE地域における紛争解決の達成と新たな紛争の予防には、対話が重要であると付言した。

## 社 会

### ◆ウクライナ人労働者等の外国人労働者の増加（25日付経済新聞）

スロバキアで働くウクライナ人の数は、2018年12月時点で約1万2000人であり、前年同期比で2.5倍に増加した（2017年は約4500人）。他方で、セルビア人労働者の増加率は停滞しており、増加数は約1000人に留まった。雇用研究所（Institute of employment）のドブロリュポフ氏は、「スロバキアでの仕事を求めるセルビア人の大多数は、既に当国で働いている」と説明した。

2018年のスロバキアにおける外国人労働者数は6万9120人であり、ここ10年間で5倍に増加した（2008年は1万3980人）。出身国別に見ると、セルビア（1万3560人）、ウクライナ（1万1840人）、ルーマニア（1万1070人）、チェコ（6060人）、ハンガリー（5930人）の順に多い。外国人労働者の多い地域は、トルナバ郡（2385人）、ブラチスラバ4区（1451人）、ニトラ郡（1367人）、ブラチスラバ1区（1010人）、マラツキ郡（842人）である。

人材派遣企業Trexima社によると、外国人労働者が最も多い職業は運転手であ

り、その平均賃金は700ユーロ（月額）である。2番目に多い職業は組立作業員であり、平均賃金は1300ユーロ（月額）である。

## 経 済

### ◆2018年の自動車生産実績（11日付経済新聞）

2018年、スロバキアは約108万台の自動車を生産し、過去最高記録を更新した。自動車生産台数は4年連続で100万台を超えており、スロバキアは引き続き人口あたりの自動車生産台数で世界一となっている。自動車メーカー別に見ると、フォルクスワーゲン（VW）が約40万台、プジョー・シトロエン（PSA）が35万2000台、起亜自動車（KIA）が33万3000台の自動車を生産した。昨年秋に稼働したジャガー・ランド・ローバー（JLR）は、昨年の生産台数を公表していない。JLRは本年の自動車生産台数を15万台と見込んでいることから、2019年のスロバキアにおける自動車生産台数は約115万台に達すると予測されている。

スロバキアにある4つの自動車組立工場は、EUによる2030年までの新たなCO2排出規制への適応するために、電気自動車生産の準備を進めている。2013年より電気自動車を生産しているVWの他にも、PSAが近日中に電気自動車の生産を開始する見込みである。KIA及びJLRも、2019年中に電気自動車生産の準備を進める予定である。

英国に本拠を置くJLRは、中国における需要の急激な低下及び欧州におけるディーゼルカーの売り上げ減少に伴い、約4500人の従業員の解雇を検討しているが、スロバキアのJLR工場には影響しない見込みである。

### ◆USスチール・コシツェ社による大型追加投資（17日付経済新聞）

16日、ペレグリニ首相及びジガ経済相は、USスチール・コシツェ（USSK）社を訪問し、同社のブルノ社長と会談を行った。会談後、ブルノ社長は、同社が1億1500万ユーロの追加投資を行い、電気自動車部品向けの無方向性電磁鋼（non grain oriented electrical steel）を生産する新たな製造ラインを建設する旨発表した。USSK社は、今年半ばに新製造ラインの建設を開始し、2020年末に稼働させる予定である。年間生産量は10万トンを見込んでいる。なお、USSK社は、子会社を含め1万2000人を雇用しているが、追加雇用は計画していない。

ペレグリニ首相は、「USSK社は、今回の追加投資により、スロバキアから撤退しないという意志を示した」と述べた。またジガ経済相は、「近い将来、スロバキアにおける電気自動車生産が活発になると見込まれている」と述べ、同社による追加投資を歓迎した。

ジガ経済相によると、スロバキア政府はUSSK社に対する投資インセンティブを提供しない見込みである。ペレグリニ首相は、「USSK社は、スロバキア政府との間で新たな覚書を締結することを検討している。政府はこれに反対していないが、前回の覚書は同社が経営危機に陥った際に結ばれたものである。同社が、前回の覚書の合意事項を遵守したことを嬉しく思う」と述べた。（注：政府は、2013年に結んだ覚書に基づき、USSK社がスロバキアから撤退しないことを条件として、USSK社の金属精錬ガスによる電力生産事業に対して助成金を提供していた。同覚書は昨年3月26日に失効した。）

USSK社は、EUによる大気汚染物質の排出規制を遵守するために、EU基金を活用しつつ、環境保護分野において多額の投資を行ってきた。同社は、スロバキアにおいて最も多くの大気汚染物質を排出している企業である（2番目はノヴァーキ火力発電所、3番目はスロヴァフト石油精製所）。同社は、新しいタイプの鉄鋼需要に対応することで、環境保護分野への多額の投資を行う必要のない非EU諸国の製鉄所に対しても、競争力を高めようとしている。

#### ◆スロバキアにおける「新シルクロード」構想の展望（18日付プラウダ紙）

スロバキア経由で中国と西欧を結ぶ貨物列車の運行が停滞している。当初、年間数百～数千の貨物列車が運行される予定であったが、中国による国外投資規制の強化及びウクライナにおける戒厳令の導入の影響を受け、2017年6月～2018年9月に運行された同貨物列車の本数は、153本に留まった。ドツカー交通・建設省報道官は、「ウクライナ情勢が安定すれば、スロバキアを経由する鉄道ルート競争力は向上する」と述べた。

ウィーン国際経済研究所（WIIW）の最新の調査によると、「新シルクロード」はスロバキアとチェコを迂回することになる。同調査を実施したホルツナー氏は、「スロバキアは山地が多く、インフラ整備が容易ではない。ポーランドやドイツを結ぶ北ルートと、ルーマニアのコンスタンツァ港からブダペストを経由しウィーンを結ぶ南ルートが、『新シルクロード』になるはずであると述べるとともに、「『新シルクロード』が通る国では、計200万人の雇用が創出され、GDP成長率は3.5%増加することになる」と付言した。

ミーゲル副財務相（「一带一路」担当・特命全権代表）は、「『新シルクロード』構想は、交通や物流面だけでなく、より広範な意味で捉える必要がある。WIIWの調査結果は一面的であり、影響力を持つものではない。『新シルクロード』は、より効率的で安全で迅速な商品輸送を保証する全世界規模の輸送網であり、海路、空路、陸路等、あらゆるルートが含まれている」と述べた。またミーゲル副財務相は、「スロバキアを『新シルクロード構想』から切り離すことはできない。貨物積み替えターミナル及び物流センターの利用と新設、

商品輸送の情報を交換するための条件と技術の整備は、スロバキアの優先事項の一つである」と強調した。

◆ハードブレグジットがスロバキアに与える影響（31日付プラウダ紙）

30日、ペレグリニ首相及びライチャーク外相は記者会見を開き、ハードブレグジットがスロバキアに与える影響に関する分析ペーパーを公表した。その概要、以下のとおり。

（1）市民への影響

ア 永住許可書を取得していない在英スロバキア人が英国に住み続けることを希望する場合、3月30日以降にモバイルアプリケーションを通じて居住許可書を取得しなければならない。取得に係る手数料は、大人65ポンド、16歳以下の子供32.5ポンド。

イ 在英スロバキア人は、社会保障、健康保険、技能証明書及び学歴証明書に関する問題を解決しなければいけない。

（2）経済への影響

ア ハードブレグジットは、スロバキアのGDP成長率を0.7～1.4%、長期的に減速させる。英国が合意に基づいて離脱する場合、0.4～0.9%の減速に留まる。

イ 政府歳入は長期的にGDP比0.2～0.5%の減収となる。

ウ 主に自動車及び自動車部品等の対英輸出が停滞する。スロバキアの対英輸出額は、輸出額全体の6%を占めている。

エ EU予算への支出額が増加する。

（3）ハードブレグジットが悪影響を与える可能性のあるその他の分野

ア 航空及び道路交通

イ 司法及び警察分野での協力

ウ 外交及び安全保障政策

エ 環境政策、メディア、知的財産権等

（了）



# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

